

4 信頼できる産地づくり - GAPの取り組み -

県内13JAの産地では、GLOBAL G.A.P.やひなたGAPの認証取得を目指した活動が進んでいます。また、関係機関も、GAP指導員の資格取得や他産地視察等でGAP手法を研鑽しています。

GLOBAL G.A.P. 団体認証 審査

JA宮崎中央ニラ部会、JAはまゆうピーマン部会(串間支部 他)、JAえびの市ピーマン部会、JA尾鈴ミニトマト栽培グループの4産地(合計 生産者86名、5選果場)は、令和2年3月2日～6日にGLOBAL G.A.P.団体認証の審査を受けました。

JA宮崎中央ニラ部会



選果場審査の様子

生産者作業場 審査の様子

JA宮崎中央ニラ部会 祝園 隆志 部会長

GLOBAL G.A.P.認証取得に向け、これまで倉庫や作業場の整備を行い、審査を受けました。様々な苦勞や慣れないこともありますが、これからも継続し、産地の信頼確保に努めます。

JA宮崎経済連 青果センター



青果センター審査の様子

審査を受ける西村主幹

JA宮崎経済連 園芸直販課 西村 隆志 主幹

取引先や消費者からの信頼向上を目的の1つとしてGAPに取り組み、現場の意識が徐々に変わるのを感じました。パートさんにも現場で気づいたことを提案してもらい、日々、改善に努めています。今回、審査を受け、まだ改善の余地があると再認識出来たため、是正に取り組み、GLOBAL G.A.P.認証取得を目指します。

JA都城いちご専門部会

JA都城いちご専門部会 坂之下 孝一 部会長

GAPに取り組み始めたことで、気づいたリスクがあります。リスクを防ぐための新しいやり方になじむ必要がありますが、産地を守るためにも、皆でGAPに取り組んでいきたいです。

JA都城いちご専門部会では、ひなたGAP団体認証取得に向けて、リスク分析やルール作成、モデル生産者の倉庫整理等に取り組んでいます。



アドバイザー(宮崎大学)によるほ場リスク分析



まとめて記帳できる部会オリジナルカレンダー



選果場に出荷物積み下ろし車両の停止線を設置

GAP視察(JAやつしろトマト部会)

熊本県版GAPを取得しているJAやつしろトマト部会の取り組みを、関係機関で視察しました。(令和元年12月3日)

JAやつしろトマト部会は、平成28年から3年かけて、トマト農家全戸(348戸)で熊本県版GAP団体認証を取得。

【取り組みの特徴】

- ①生産者と関係機関の役割分担で、生産者負担軽減や効率化
- ②モデル的な片付け事例を多数作り、現地研修で共有
- ③記帳はGAP用カレンダーにまとめて記入で省力化等



JAやつしろ選果場を視察



工具本数を一目で確認できる工夫



GAPカレンダー

みやざきブランド『かわら版』

みやざきブランド推進本部(宮崎県・JA宮崎経済連)

No.3

2020年
春号

みやざきブランド産地の動きや産地・品目ごとの取り組みを広く紹介するみやざきブランド『かわら版』。

今回は、かんきつプロモーション、続々と進む保健機能食品の商品化、スマート農業やGAPの取り組みなどをご紹介します!

信頼される産地づくり

ブランド戦略

特長ある商品づくり

安定的な取引づくり

令和元年度トピックス

1 安定的な取引づくり かんきつプロモーション

◆日向夏発見 200年



「日向夏発見200年」ロゴ

日向夏の発見は、文政年間(1818～1831年)の夏、宮崎市曾井 真方安太郎邸宅でのこと。宮崎県では2020年3月から「日向夏発見200年」と位置づけ、年間を通したプロモーションにより、日向夏の歴史や美味しさを再発見してもらうとともに、宮崎のソウルフルーツとして全国に発信していきます。また、日向夏青果と加工品のコラボ販売、飲食店でのメニュー提供なども展開し、日向夏を盛り立てていきます。

日向夏発見200年特設サイト [検索](#)



「日向夏発見200年」PR大使 みやざき犬ひくん

宮崎県果樹振興協議会 日向夏部会 外山 清一 部会長



200年という長い期間親しまれてきた日向夏の魅力を、この機会を通して、多くの消費者にPRしていきたいです。

◆完熟きんかん「たまたま」解禁

令和2年1月14日の完熟きんかん「たまたま」解禁イベントとして、県内4地域、東京、福岡では、消費者と生産者が共に祝う「きんかんヌーボー」等が開催されました。海外では、副知事出席のもと台湾初のきんかんヌーボーが開催されるなど、きんかんヌーボーは海を越えて広がっています!



きんかんヌーボー(宮崎市)



きんかんヌーボー(日南市)



きんかんヌーボー(美郷町)



きんかん食べないと!(高千穂地区)



きんかんヌーボーin台湾(郡副知事)

◆ひなたフルーツフェア

宮崎市内の飲食店・バー42店舗で、きんかん、日向夏のオリジナルメニューを提供する「ひなたフルーツフェア」を展開しました(令和2年2～3月)。



2 特長ある商品づくり・安定的な取引づくり

◆保健機能食品シリーズ 新商品

みやざきブランド推進本部は、平成17年より青果物の機能性成分の分析を開始し、平成27年の食品表示法施行により青果物でも栄養機能の表示ができるようになったことを受け、いち早く青果物の保健機能食品の商品化に取り組んでいます。

これまでに、栄養機能食品(ビタミンC)「グリーンザウルスピーマン」、機能性表示食品(ルテイン)冷凍野菜「宮崎育ちのほうれんそう」、栄養機能食品(ビタミンC・ビタミンE)完熟きんかん「たまたま」が販売されていますが、今回、新たに3品目の栄養機能食品が商品化されました。

保健機能食品は国の制度に基づく食品です

◆保健機能食品…機能性の表示ができる



◆一般食品…機能性の表示ができない

ビタミンCは、皮膚や粘膜の健康維持を助けたり、抗酸化作用を持つ栄養素。



令和元年11月 発売開始
栄養機能食品(ビタミンC)
さららピーマン



令和2年4月 発売開始
栄養機能食品(ビタミンC)
ゴーヤー

ビタミンAは、夜間の視力の維持や、皮膚や粘膜の健康維持を助ける栄養素



令和元年12月 発売開始
栄養機能食品(ビタミンA)
にら

◆保健機能食品コーナー化

消費者の健康志向の高まりを受け、宮崎県産青果物の保健機能食品を集めた特設コーナーが設置されました。

青果物での保健機能食品の認知度向上を図るとともに、消費者が自身の健康維持に必要な青果物を選択しやすくすることで、更なる付加価値化を進めます。

設置店舗 ・イオンスタイル宮崎店
・エコープみやざき
(神宮店、清武店、川南店、一ヶ岡店、南郷店)

エコープみやざき 商品課 日高 和幸 バイヤー

「コーナー化されることで目に付きやすくなった。青果物の保健機能食品を積極的に買いたい」とお客様にも好評。今後も品目を増やし、消費者ニーズに合った売り場づくりをさらに展開していきます。



イオンスタイル宮崎店



エコープ神宮店

3 信頼できる産地づくり(スマート農業)

高度環境制御ハウス

JA宮崎経済連は、先進技術を用いた省力・多収栽培技術を現場へ円滑に普及させるため、県総合農業試験場内にきゅうりとピーマンの実証ハウスを設置しました。

高軒高を活かしたハイワイヤー栽培、複合環境制御、細霧冷房による高温対策、養液栽培システムを取り入れて、周年栽培での収量増加を図ります。把握したデータはマニュアル化し、現場へのスムーズな普及を目指します。

10アールあたり目標収量
きゅうり (県平均)20t → 45t
ピーマン (県平均)13t → 25t



24aのフェンロー型ハウス
(竣工落成式 令和2年3月26日)



ピーマン定植(令和2年3月18日)
きゅうり定植(同27日)

畜産 スマート農業

宮崎県内の畜産分野では、様々なスマート農業機器の導入が進んでいます。

◆搾乳ロボット

搾乳の自動化により労働時間を削減するとともに、個体の乳量・乳質や活動量のデータ管理と解析により、発情や疾病を早期発見する環境を構築します。



搾乳ロボット

[事例]

◆労働時間(1日あたり)
(導入前)5時間 → (導入後)1時間

◆年間乳量(1頭あたり)
(導入前)9,180kg → (導入後)10,461kg

◆次世代閉鎖型牛舎

センサーにより、自動で温度、湿度、風速を均一に保つ次世代閉鎖型牛舎は、乳量・受胎率の向上、気流による害虫対策が期待されます。



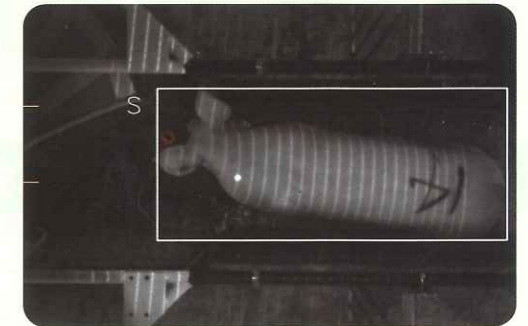
壁一面の給気・換気ファン

◆肥育豚のオートソーディング装置

県内では、肥育豚の自動出荷選別機の導入が進んでいます。また、現在、体重計ではなく、画像解析を用いた選別機が研究されています。労力削減と枝肉単価の向上が期待されます。



自動出荷選別機(オートソーター)



画像解析による豚の体重推定機

アカデミー賞公式パーティー 3年連続 宮崎牛 採用



令和2年2月9日に米ロサンゼルス・ハリウッドで開かれた第92回アカデミー賞授賞式の後、俳優や監督らを招き開催される公式パーティー「ガバナーズ・ボール」のメニューとして宮崎牛が提供されました。宮崎牛は、今回で3年連続の採用となります。